

あいさつ

山々に雪の便りが届く季節となりました。

いよいよ2022～2023シーズンの幕開けを待つばかりとなりました。

日頃は、当連盟の諸事業にご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて昨シーズンは、多くの降雪のあり県内で予定されていた大会及び行事が多くの関係者のご協力により実施できたことに感謝申し上げます。

ただ、福井県開催の常陸宮賜杯第72回中部日本スキー大会については、コロナ禍と中部7県の感染状況により中止となりました。

先シーズンを振り返りますと、前回の石川晴菜選手に続き石川県出身の小山陽平選手が北京オリンピック出場の栄冠を手に入れました。

オリンピック回転競技では、果敢に攻めの姿勢をみせましたが、惜しくも途中棄権という結果になりましたが、県内選手のモチベーションアップにつながったことと思います。

また、全国高等学校選抜スキー大会で下康生がSL6位、JOCジュニアオリンピックカップで山口蓮太が10kmフリー5位、国民体育大会で山口佑希子がクラシカル6位と輝かしい成績を残しました。

今後の課題として、ジュニア選手の育成とジュニア層拡大、県連登録会員の維持があげられます。

ジュニア選手の育成と拡大に向けて、基礎・応用技術を楽しみながら習得でき、飛躍的にレベルアップできるような練習環境の整備を進めていきたいと考えております。

登録会員の維持については、スノースポーツ多様化に合わせ現状を把握し、スノースポーツの楽しさを実感できる魅力あるカリキュラムをスキー場とタイアップして出来るよう検討していきたいと思っております。

最後に、協賛会員皆様方の長年にわたるご支援に感謝申し上げ、来たるシーズンの諸事業が降雪に恵まれ、会員皆さまのご協力により、スムーズに運営ができ、そしてより多くの成果が上がることを期待し、ご挨拶いたします。

石川県スキー連盟  
会長 山本 外勝